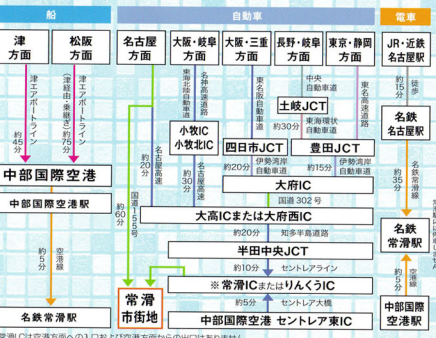


交通のご案内



制作：とこなめ未来絵ネットワーク
 問い合わせ先：常滑市企画部企画課（常滑市制60周年記念事業事務局）
 TEL.0569-35-5111

古く懐かしい町から、常滑の今、そして未来へ歩いてみて下さい。



6 街並み 常滑市立常滑東小学校

常滑のまちを見渡せる高台にある、常滑東小学校。この辺りは焼き物の工場が多く、常滑にしかない風景の絵が見られました。飛行機、ボート、招き猫、煙突、緑、工場、常滑の上空を飛ぶ鳥の気分になれる？ 常滑のまちがギュッと詰まったタイルアートです☆



7 時計台のもとに 常滑市立西浦北小学校

この学校の自慢は、三角屋根の校舎と伝統ある土俵。海が近いので、元気な海の生き物の絵も見られました。オーストラリアの交換留学生と一緒に貼ってくれました。地球の裏までタイルでつながりましたね。時計台のもとに、みんなの大切なものが集まりました。お相撲さん、魚、ひまわりもつけて下さい。



8 夕日に映えて 常滑市立西浦南小学校

古場の高台から、セントレアがとてきれいに見えます。オレンジとも赤ともいえない大きな夕日が沈む夕方。そこを飛行機が旋回していく様子を、たくさんの子が「きれい」と感じるのでしょうか。当時6年生の子が描いてくれた、飛行機の絵をそのままタイルアートに！ 土台の青は、伊勢湾をイメージしました。



9 大海原へ 常滑市立鬼崎北小学校

海の近くにある鬼崎北小学校は、定期的に海岸清掃をしています。そんな環境に育つ子どもたちは、親子のカメと卵を絵に描いてくれました。子ガメのかわいらしい瞳に注目です☆ この浜から出たウミガメは、太平洋を泳いで産卵に帰ってきます。そんな風に、常滑から世界へ羽ばたく人が育ってほしいですね。

このまちの芸術家の方々、タイルの仕事していた方々のアドバイスや、常滑の業者さんに資材や技術など、多くの協力を頂きながら活動しました。



10 海の恵み 常滑市立鬼崎中学校

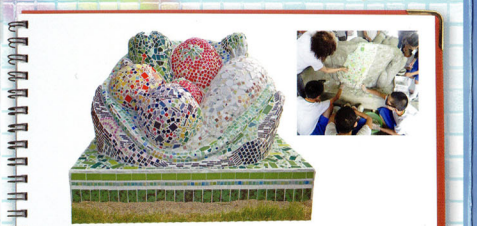
朝の伊勢湾には漁船が行き交い、夕日の沈む海に、のり巻の風景が広がります。この海で育つ「美味しい鬼崎海苔を未来に残したい」。網を引き上げる漁師さんの日に焼けた手を、黒く光るタイルで表しました。「大切なもの」の絵の中には、松林も見られました。裏側、潮風に吹かれる黒松は「常滑市の木」です。



11 姫と菊華 常滑市立青海中学校

青海山にある大野城跡は、見晴らしの良い展望台として親しまれています。大野の歴史から、この城に嫁いだ「江(こう)」をイメージしました。淡く優しいタイルを使って表した女性らしさが、この作品の特徴です。その着物と白鳥の手に、この地区で栽培している電照菊を添えました。時代に翻弄されながらも歴史を紡いだ姫の手です。

制作ガレージには、温かい常滑弁が書き合ひ、子どもたちが元気に走り回る姿がありました。親子で参加してタイルアートに思い出を残したり、常滑のタイルを知らない子どもたちが楽しくタイルに触れる場面も見られました。



12 実のり 常滑市立南陵中学校

南陵中学校の未来に残したいものは、...農業の手。この地区を象徴するいちじく畑。そして野菜を育てるおしいちゃんおはあちゃんに暖かい眼差しが注がれた絵を取り上げました。南陵中学校のみんなが手がけた、やさしい色使いを見て下さい！ いちじく、玉葱、ピーマン、トマト、大根を包むのは、キャベツの葉と、畑仕事で「日に焼けた手」。きらきらと光る、みずみずしいタイルアートができました☆



13 つなぐ力 常滑市立常滑中学校

常滑中学校の手は、町を包む手。前面の青いグラデーションは、常滑の海をイメージしています。煙突の隅に萌える緑が、この町の再生をイメージさせます。海、土、そして空に向かって、未来へ、脈々と流れるものを「つなぐ力」です。

とこなめ 未来絵プロジェクト

ものづくりの伝統が受け継がれ、陶器の立体造形が大切に守られている常滑の街。その歴史の上に、私達はさらに、若い人や子どもたちもわくわくするようなカラフルなタイルで新しい街の景観を作りたいと考えました。

このタイルアートの道は、常滑のものづくりと人との触れ合いを未来へつなぐ、「未来絵の道」

小中学校ごとに制作したモニュメントは、伝統文化、豊かな自然、多様な産業、まちの景観といった常滑独自の魅力をタイルで表しています。

「みんなの宝物」を、常滑をかつて支えた産業である(タイル)を使って形にすることで、子どもたちと一緒に(ものづくりのまち常滑)に触れ、未来にのこしたいと考えました。

常滑に育つ子どもたちが、カラフルなタイルのように明るい夢を描けるように...「とこなめ未来絵プロジェクト」と名付けました。

とこなめ未来絵プロジェクトを企画した私達は、世代も職業も様々な市民の集まりです。私達は、参加型立体タイルアートを企画し、常滑市制60周年特別記念事業として活動を始めました。

私たちがタイルアートを通して目指すことは「人とつながる 手ざわり」。常滑のあたたかい人に触れ、タイルに触れ、常滑の良さをみんなで体感したいと考えました。

タイルアートは、小中学生の「大切なもの、未来にのこしたいもの」の絵をもとに制作しました。中学生においては、「つなぐ」をテーマに、「手」を共通にデザインしました。

タイルアートの骨組みとなる鉄筋加工、金網張り、セメント塗り、タイル貼り...

世代や地域を超え、人と人が触れ合いながら制作して来ました。

遠方からも多くの方が参加し、制作をきっかけに、懐かしい再会や新しい出会いが生まれました。熱い思いから、1万人を超える参加となりました。

この中で感じられた「人とつながる手ざわり」こそ、私たちが未来にのこしたいものです。

つな「繋ぐ」

このプロジェクトのテーマ「人とつながる手ざわり」から連想しました。あらゆる世代、あらゆる考え方の人が繋がる様を、色々な輪を連ねた形で表しました。

青い海があり、丘の緑があり、豊かな自然の中に暖かな人がいて、手を携えています。黄色、オレンジは子どもや大人、様々な人。赤や黒の輪は、土の焼き物、炎、陶工のエネルギーを表します。

それぞれの輪は、いろいろな方々を向きながらも、互いに支え合いながら立っています。ビビッドな色で、現在の常滑の様子を表しています。すべての輪に人を表すオレンジ色が帯のように繋がっています。これが未来への扉、アーチのようです。

スクルー「Screw」

常滑高校の生徒さんのアイデアスケッチの一部を参考にして、常滑の新しい動力をイメージさせる渦のような形となりました。未来絵プロジェクトのロゴマーク、人と人をつなぐ架け橋の虹から、赤色で彩っています。ベンチは、座って聴けるような新たな憩いの場を思い制作しました。子どもたちも海外の方に説明できるよう、簡単な英単語の名前をつけました。



新しい波「New wave」

投票で選ばれたデザインで、波は新しい考え方、エネルギーが隆起してくるイメージの形です。紫の部分は、常滑の文化、生活、歴史を表しています。海と空の玄関を臨むこの場所は、常滑の子どもたちと、世界の子どもたちが出会う場所。真ん中のピンクと黄色は、その出会いと繋がるような笑顔を表します。将来を描く子どもたちをテーマに、柔らかな色合いをしています。

セントレアから離陸する飛行機と夕日を眺めながら、種々べてみてください。

2 な・か・ま

「常滑のまちに遊びに来てほしいな!!」りんくうの街へ向かう人々を笑顔で迎える。元気な招き猫です! 「やさしい散歩道」や「招き猫通り」を校区にもつ常滑西小学校。「大切なもの」の絵には、招き猫の他に、「絆」「笑顔」も見られました。低学年の子が描いてくれた絵をもとに、うさぎ、豚、犬の「な・か・ま」のタイルアートになりました。台座は、草原をイメージしています。裏のひまわりも見てね☆

3 春を待つ

この地区の大切なものは、春のお祭り。絵の中の、「山車を曳くたくさんの人」の服装や動きを立体にしました。ひとりひとりの表情を見てください。細かくて、根気の要る所でしたが、世代を超えて、みんなの力が集まったタイルアートです。

4 伝承の歌

常滑市の最も北にある三和小学校の子どもたちは、長業でお雛子の節を習い、伝統に親んでいます。土台の青海波や市松模様は、苗を吹く時のハッピー柄をイメージしました。千鳥も飛んでいます。校区に広がるのは豊かな里山と田園。その緑を表す6色のグラデーションのタイルは、地元の工場が協力して下さったものです。裏側に回って、田圃に降り立つ羽の雛を見て下さい。

5 権丸

歴史的な街並みを残す大野町。毎年5月の大野祭りの最大の見所は、矢田川に浮かぶ徳義船「権丸」です。台座は、矢田川の水面をイメージして青いタイルを使用しています。後ろの部分で、提灯が回転する時に光が流れる様子を表しました。お祭りの日、この提灯は、ひとつずつ手から手へ渡り、船に届けたいです。伊勢湾台風も乗り越え、今に伝わる伝統の灯りです。